

## 一般社団法人コミュニティシネマセンター

### 平成28年度(2016年度) 事業報告

#### 1. 受託事業

##### [1] 地域の映像文化を担う人材を育成する

##### 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2016

(文化庁 平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。これまでに、デジタル時代における映像メディア・キュレーター  
の育成 (H24)、ソーシャルビジネスとしての映像文化事業を展開できる人材の育成 (H25)、H26～27年  
度は、文化政策における映画映像事業の現状、とりわけ「上映」事業に対する振興策を考えることをテ  
ーマに、人材育成プログラムを構築してきた。

2016年度も、上映をめぐる状況の変化や新たな動きを考えるためのシンポジウム、地域の上映者を育  
成するための様々なワークショップを実施した。

##### (1) 全国コミュニティシネマ会議 2016 イン高崎の開催

2016年9月30日(金)～10月1日(土) 共催:高崎映画祭委員会/NPO 法人たかさきコミュニティシネマ

参加者:217人

高崎市では高崎映画祭が始まって30年、「コミュニティシネマ会議」が始まって20年、この間、デジタル化と  
いう映画の革命的な変化を経験し、東日本大震災という大きな困難を乗り越えて、映画祭や自主上映、シネ  
マテーク(公共映画専門館)や映画館(ミニシアター)など、「コミュニティシネマ」の活動は、全国各地で多様  
な形で展開されてきた。「コミュニティシネマ」が目指してきたことは何か、それはどのように実現したのか、実  
現できなかったのか。コミュニティシネマに携わる上映者たちとのディスカッションを通じて検証した。

##### ■プレゼンテーション:高崎における「コミュニティシネマ」

富岡賢治(高崎市長)、志尾睦子(シネマテークたかさき/高崎映画祭事務局代表)、田井肇(シネマ5代表/  
コミュニティシネマセンター代表理事)

##### ■ディスカッション:温故知新?～コミュニティシネマのこれまでとこれから

志尾睦子、行定勲(映画監督)、松本正道(アテネ・フランセ文化センター)、宮崎善文(松本シネマセレクト)、  
小野寺生哉(カナザワ映画祭)、榎柁一則(みやこシネマリー)、土田環(映画研究者)

##### ■映画「煙突と映画館 みやこシネマリー閉館の記録」上映とトーク 立木祥一郎(Tecollc)、榎柁一則ほか

##### ■コミュニティシネマ プレゼンテーション・マラソン!

熊本 Denkikan、伊参スタジオ映画祭、札幌映画サークル、ちば映画祭、シネマチュプキ、シネコヤ、まるびい  
シネマパラダイス、シネマストリートフェス、Kisssh-Kissssssh 映画祭、鹿児島ガーデンズシネマ

##### ■ディスカッション:地域のミニシアターの20年

梶原俊幸(横浜シネマジャック&ベティ)、飯島千鶴(川越スカラ座)、榎本雅之(浜松シネマイーラ)、吉田由  
利香(京都みなみ会館)、下地久美子(那覇桜坂劇場)、北條誠人(ユーロスペース)

##### ■トーク:劇場と映画と観客を結ぶ

小笠原正勝(デザイナー)、田井肇

##### ■プレゼンテーション:「コミュニティシネマ」のススメ

##### ■映画上映「残されし大地」

##### (2) Fシネマ・プロジェクトの推進

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづける  
ための「Fシネマ・プロジェクト」。2016年度は、上映者・映写技師育成のためのワークショップ、F

シネマの情報ポータルサイト「Fシネマップ」の運営、フィルムでの上映会を行った。

■フィルム映写ワークショップ

①2016年8月2日 会場：東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館 参加者 27名  
フィルム保存庫、フィルム検査室見学+映写室見学（サンプルフィルム上映）+重要文化財映画フィルム保存庫見学

上映に携わる人から一般の人まで、フィルムに興味のある人なら誰でも参加できるようにした。定員を超える申し込みがあり、フィルムセンターのフィルムがどのように保存され、調査・補修作業が行われ、上映されるのか、フィルム保存庫や検査室の見学に加え、実際にフィルムに触れ、映写までの流れを体験してもらうことで、フィルムについての知識を深めてもらうことができた。

②2017年2月21日、22日 会場：東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館 参加者 36名  
1日目は、フィルム映写未経験者や初心者を対象とし、フィルムアーカイブを見学し、実際にフィルムに触れてもらうことで、フィルムに関する知識を深めてもらうことができた。2日目は、フィルム映写を定期的に行っている経験者を対象とし、注意を要するアーカイバルプリントの取り扱いや、移動用映写機の組み立てから調整までの実習を行い、質の高い映写のための知識と技術を身につけてもらうことができた。

■フィルム上映とシンポジウム

①『フランススカ』日本語字幕付版の日本初上映+「オリヴェイラ・シンポジウム」  
2016年7月13日 会場：草月ホール 共催：アテネ・フランセ文化センター 参加者計 351人  
上映作品：『フランススカ』（1981年/166分/ポルトガル/カラー）  
監督・脚本：マノエル・ド・オリヴェイラ  
「オリヴェイラ・シンポジウム」出演者：ヴァレリー・ロワズルー（映画編集者）、筒井武文（映画監督・映画編集者/東京藝術大学大学院教授）土田環（映画研究者/早稲田大学理工学術院専任講師）

②「フィルム de アニメ」  
2017年3月3日～3月5日 会場・共催：山口情報芸術センター 参加者計 375人  
上映作品：『マイマイ新子と千年の魔法』（2009年/片渕須直監督）『秒速5センチメートル』（2007年/新海誠監督）『MEMORIES』（1995年/大友克洋製作総指揮）  
関連企画：映写室見学ツアー「映画の背中を見てみよう」

(3) 上映とディスカッション「私たちはなぜ自主(制作)映画を上映するのか。」

2016年12月23日 会場・共催：特定非営利活動法人映画美学校 参加者計：101人  
近年、新しい映画映像作品のコンペと上映イベントを連動させる企画が全国各地で開催され、新たな“自主制作”映画をプログラムの中心に据えるものが増えている。このシンポジウム&ワークショップでは、このジャンルの映画制作者、上映者、プログラム・ディレクターなどが集まり、作品をみながら現状を話し合った。

上映作品：『くらげくん』（片岡翔）『反対になった電池が光らない理由だなんて思えなかった』（杉田協士）『さいなら、BAD SAMURAI』（大野大輔）『ひとまずすすめ』『ひとまずすすんだ、そのあとに』（柴田啓佑）『流星と少女』（片岡翔）『マグネチック』（北原和明）

ディスカッション「私たちはなぜ“自主(制作)映画”を上映するのか」:

[パネリスト] 沢村敏（東京テアトル株式会社映像事業部）、菅原睦子（ショートピース！仙台短篇映画祭実行委員長）、鶴岡明史（ちば映画祭実行委員会）、直井卓俊（スポッテッドプロダクションズ代表）、宮崎善文（松本CINEMAセレクト代表理事） [司会] 市沢真吾、四方智子 [映画美学校]

#### (4)アートマネージメントワークショップ イン 東北

東日本大震災から5年を経て、被災地ではようやく、新しい文化施設の計画が進められ、文化事業も復活しつつある。この事業では、企画書予算書の作成～広報～イベントの実施といった一連の作業をワークショップとして実施した。

##### ■石巻

①12月18日「かもめ食堂」上映会

上映会場周辺の飲食店の協力を得て、上映会を実施するとともに、食事を楽しんでいただくという企画の運営。

②2017年3月25日(土)映写技術ワークショップ、26(日)「タイムグラバあちゃん」上映会

ワークショップでは主に映写の基礎知識を学び、『タイムグラバあちゃん』上映会の会場作りから映写、運営までを体験する。

講師：櫛桁一則（元みやこシネマリー支配人）岩崎ゆう子（コミュニティシネマセンター）、  
ゲスト：澄川嘉彦（『タイムグラバあちゃん』監督）

ワークショップ参加者計13名 上映会参加者『かもめ食堂』60人、『タイムグラバあちゃん』78人

##### ■宮古

12月2日～12月4日

第5回「みやこほっこり映画祭」において、様々な会場で上映を企画・実施した。

『シネマの天使』（2015年/日本/時川英之監督）会場：小成園

『ASAHIZA 人間は、どこへいく』（2013年/日本/藤井光監督）会場：東屋

『煙突と映画館』（2016年/日本/立木祥一郎監督）会場：東屋 トークゲスト：立木祥一郎監督

『映画よ、さようなら』（2010年/ウルグアイ/フェデリコ・ペイロー監督）会場：みやこシネマリー

##### ■気仙沼

12月2日（ワークショップ）、2017年2月18日、3月4日（上映会）

映画上映ワークショップ

12月2日（金）14時～ 気仙沼市立古町児童館 参加者8名

映画上映会『ミニオンズ』（2015年/アメリカ/91分）

① 2月18日[土]10時～ 気仙沼市立赤岩児童館 上映会参加者30人

② 3月4日[土]10時～ 気仙沼市立大島児童館 上映会参加者28人

上映会にあたっては、児童たちによるポスター作り、当日の司会、ポップコーンづくりなど、上映会を盛り上げる工夫をした。

#### [2] 「映画上映活動年鑑 2016 の作成

(文化庁 平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

「興行」（及び配給）の動向に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに、映画祭や公共上映等の新しいデータを加えて、より幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、データを収集し、分析した。

概要 A4変形版/250ページ

##### I 映画館での上映

[1] 映画上映の現状と動向

[2] データ(1.概況/2.都道府県別概況/3.公開本数など/4.諸外国との比較)

[3] 論考：映画興行の可能性

資料：ディスカッション採録「地域のミニシアターの20年」

ディスカッション採録「私たちはなぜ“自主（制作）映画”を上映するのか？」

##### II 公共上映（公共施設での上映など）

[1] 公共上映とは何か 公共上映の歴史と現在

[2] データ（1.映画祭/2.シネマテーク/3.公共ホール）

資料：ディスカッション採録「温故知新？コミュニティシネマのこれまでとこれから」

コミュニティシネマの20年 1994～2016

Ⅲ 特別調査 映画館と公的な支援について考える

事例1：フォルツァ総曲輪 [富山県富山市]

事例2：シネマテークたかさき [群馬県高崎市]

事例3：川崎市アートセンター [神奈川県川崎市]

Ⅳ ドイツの映画館を歩く

V 資料：都道府県別上映施設一覧

**[3] 映画祭に関する実態調査（日本芸術文化振興会委託事業）**

2015年度より継続している調査事業。国内の約150の映画祭のカタログを作成し、現状を分析した。

「映画祭」に関する基礎調査 2015-2016 報告書

概要 A4版/108ページ

I | 映画祭の現状と課題

日本における映画祭の現状と課題

1 | 本報告書における映画祭の定義

2 | 映画祭の変遷

3 | 映画祭の規模

4 | 映画祭の現状と課題

映画祭の現在

国際映画祭の現在：10年目の国際映画祭プログラマーとして考えること

地域映画祭の現在：インタビュー・釜石てっぱん映画祭

II | 全国映画祭カタログ（都道府県別）

国際映画祭カタログ

地域映画祭カタログ

III | 論考：映画祭とは何か——映画祭の歴史と現在

## 2. 自主事業

### [1] 三陸映画上映ネットワーク事業(シネマエール 2016)

2011年5月にスタートした「シネマエール東北 東北に映画を届けよう!プロジェクト」、2016年度末まで約6年間で、岩手、宮城、福島の沿岸地域を中心に、673回の上映会を行い、35000人を越える来場者を迎えることができた。2016年度の上映回数は岩手県31回、宮城県16回、福島県6回の計53回、観客数は、岩手県1,232人、宮城県1,783人、福島県675人の計3,690人。

近年、シネマエール東北では、支援として映画を届けるだけでなく、被災地に上映活動を根付かせるための育成活動に力点を置いて活動をしている。

岩手県では、震災後も“三陸唯一の映画館”として営業を続けてきた「みやこシネマリー」が2016年9月末で閉館したが、「シネマリー」の運営者でありシネマエール東北の岩手県の担い手でもある「みやこ映画生協」は引き続き、活発に活動をしている。2016年12月には第5回みやこほっこり映画祭を開催、宮古市の中心部に古い蔵(東屋)をリノベーションした「シネマデアエル」が開館。「みやこシネマリー」では、現在も毎月、みやこ映画生協による上映会が行われている。

釜石市に2015年末にできた「釜石PIT」では、2016年度からは毎月「釜石PIT映画上映会CINEPIT」が行われている。8月には「第1回釜石てっぱん映画祭」が開催された。また、2013年より自主上映団体「釜石シネクラブ」が活動をスタート、定期的な上映会を行っている。

岩手県北部では、みやこ映画生協のきめ細かな上映活動により、岩泉町や大槌町でも地域の人たちによる上映会が定期的な開催されるようになり、自治体等の支援も得て、着実に上映者が育ちつつある。

宮城県では、沿岸部最大の市であり、かつて6つの映画館があった石巻市の中心市街地に新しい映画の場所をつくろうと、2012年にISHINOMAKI2.0と共同で上映団体「ISHINOMAKI 金曜映画館」を立ち上げ、2016年度も8回の上映会を開催、のべ参加者数は1000人を越えた。また、気仙沼市にある4つの児童館では2012年以来、各館で年に1回、上映会を開催している。

福島県では、南相馬市「朝日座」で、朝日座を楽しむ会と共催で、日本アカデミー賞最優秀賞受賞作品上映会を開催。また、南相馬市、相馬市、会津若松市で、ポケモン映画の上映会を開催(主催:株式会社ポケモン)、多くの子どもたちに映画を楽しんでもらうことができた。

#### 共同開催、現地事務局・実施団体(三陸映画上映ネットワーク事業):

岩手県・みやこシネマリー / 釜石シネクラブほか

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0(ISHINOMAKI金曜映画館)

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワークほか

後援:日本アカデミー賞協会 支援:芸術文化振興基金

#### ■「うつくしいひと」熊本支援チャリティ上映会

「シネマエール!」事業の一環として、2016年4月に発災した熊本地震の被災地支援のため、「うつくしいひと」熊本支援チャリティ上映会の全国巡回を実施した。

コミュニティシネマセンター関連では

上映会場:51会場 参加者数:8009人、入場料収入+募金総額:830万6858円

となり、入場料収入+募金は行定勤監督より、熊本県に届けることができた。

### [2] シネマ・シンジケート プロジェクト

#### (1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

- ・ コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施(割引金額は各館が任意に設定)。
- ・ SNS等を活用してデジタルシネマに関するトラブルについて情報共有を進める。

#### (2) 配給協力事業

- ・ ユーロスペース等を中心にスタートした「the アートシアター」の広報印刷物の制作に協力した。

### [3] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト関連企画

#### (1) オリヴェイラ監督追悼特集

現役最高齢の映画作家として数多くの作品をつくり続け「奇跡の映画作家」と称されたマノエル・ド・オリヴェイラ監督の追悼特集を全国に巡回した。(『レストロの老人』以外は35ミリフィルム)

巡回作品: ドウロ河 1931年※ニュープリント制作 アニキ・ボゴ 1942年 春の劇 1963年

過去と現在 昔の恋、今の恋 1972年 フランシスカ 1981年/※日本語字幕付初上映 カニバイシュ 1988年  
ノン、あるいは支配の空しい栄光 1990年 神曲 1991年 アブラハム溪谷 1993年 階段通りの人々 1994年  
永遠の語り 2003年 レストロの老人 2014年 全12作品

実施会場: (2015年度 ユーロスペース 2016年1月23日(土) - 2月5日(金))

高崎映画祭(高崎市) 2016年4月3日~4日

川崎市市民ミュージアム(川崎市) 2016年9月10日(土)~9月25日(日)

草月ホール 7月13日 特別企画『フランシスカ』特別上映+シンポジウム

神戸アートビレッジセンター 2016年10月15~20日、11月12~17日

大阪シネ・ヌーヴォ 2016年11月19日~25日

金沢21世紀美術館 2016年12月2日(金)~4日(日)

広島市映像文化ライブラリー 2017年1月26日~2月9日

山口情報芸術センター 2017年2月18日、19日、25日、26日

アテネ・フランセ文化センター 2017年3月6日~18日

名古屋シネマテーク 2017年3月25日~31日

全11会場 観客動員数 計 8,755人

#### (2) 「蘇ったフィルムたち~東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

「F シネマ・プロジェクト」の一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作の数々を、35ミリプリントで巡回する。(2013年度より継続)

2016年度実施会場: 映画の楽校(高松市) 3作品上映/ 札幌映画サークル 4作品上映

### [4] 映画の巡回/特集上映会の開催

#### (1) フレデリック・ワイズマン レトロスペクティヴ 2016

コミュニティシネマセンターが保有するフレデリック・ワイズマン監督作品の特集上映を実施した。

2017年3月18日~31日 実施会場: シネマヴェーラ渋谷

21作品上映 観客動員数 計 2,746人

#### (2) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督、ヤスミン・アフマド監督作品、福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA~人間は、どこへいく』、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行った。(18回)

### [5] その他の事業

#### (1) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実など

コミュニティシネマセンターのウェブサイトを見直しリニューアルオープンし、ツイッターやフェイスブックなど積極的に活用するようになった。(サイトへの年間アクセス件数 80,420件)

会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかった。(2016年度団体会員 68団体)

#### (2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど